

今回のスカラシップで学んだこと

北海道科学大学

学生

はじめに、この素晴らしい機会を与えてくださった Raymond Murphy 氏をはじめケンブリッジ大学出版の皆さま、Bell Cambridge の皆さま、ありがとうございます。私が渡航した7月28日からの2週間で経験したことを共有できたらと思います。

私が滞在したのはイングランドの東部にあるケンブリッジという小さな街でした。ケンブリッジ大学



があることで有名で、比較的穏やかで勉強に適しているという印象でした。2週間、私はケンブリッジにある Bell School という ESL で語学の向上に励みました。初日からテストがあり、そのテストの結果によりクラスが分けられるといった感じでした。私が配属されたのはアドバンスクラスでしたが、クラスメイトの英語力は非常に高く、当初私はついていけないか心配でした。クラスでは文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングを全て学びましたが、スピーキングに重点をおいているような印象でした。内容のレベルは高く、世界の環境問題や近未来テクノロジーの賛

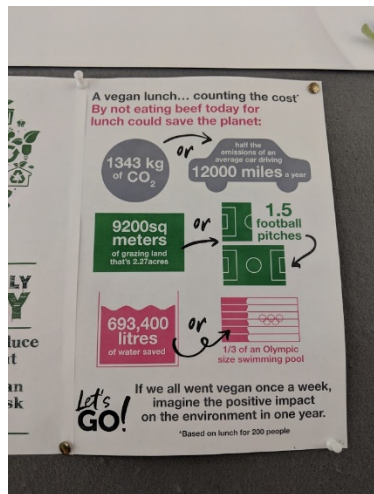


否についてディスカッションするなど、英語だけでなく自分のまわりの環境について見直す良いきっかけとなりました。クラスの変更が何回かありましたが、最終的に居たクラスのクラスメイトはアルゼンチン、イタリア、スイス、スロバキア、ベネズエラ、台湾、フランス、ベルギー、ロシア、サウジアラビアの生徒という国際色豊かなクラスでした。そのため、日本語はほぼ使わず英語漬けの毎日でした。彼らの英語力は非常に高く、ディスカッション等のアクティビティではついていけないことがしばしばありましたが、クラスメイトと先生の力を借りながら、



自分の意見について自信を持って発言できるようになれたかと思います。よくよく考えて見ると、日本ではなかなか自分の意見を発言する機会がなかったかと思います。また、日本の文化的にも、正直、自分の意見に反して他人の意見に合わせてしまうといったことも少なくありませんでした。しかしクラスでそのような生徒は一人もいません。皆自分の意見について自信を持って発言し、他の人はそれを非難することなく尊重していました。また、最終的にはそれらを自分もできていました。私は来年大学を卒業して社会人になりますが、社会人になる上でこの事は非

常に大切な事だと考えています。

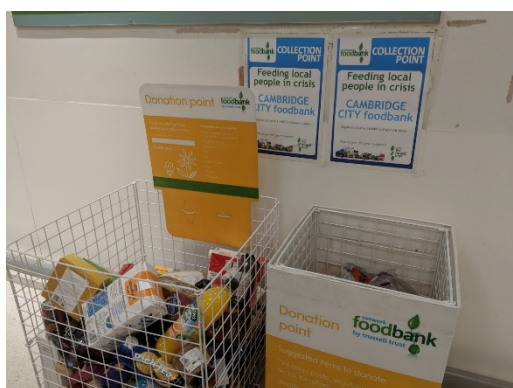


また、今回の滞在で学んだもう一つ大きな事は、イギリスの環境に対する文化です。環境問題と言われるとまずはじめに思い浮かぶのは地球温暖化ではないでしょうか。ケンブリッジは比較的涼しいと聞いていましたが、私が滞在している間30度を超える日は珍しくなく、現地の人も「今年は異常」と異口同音に言っていました。地球温暖化はもはや全世界にとっての問題で、日本に居ても「エコ」という言葉があるように消費電力を抑えるような呼びかけを時々見たり聞いたりしていました。前述した通り、あるクラスの中で、みんなで環境問題について話し合いました。ある国では服のリサイクルが盛んであったり、ある国では

再生紙を積極的に活用したり等、日本でも行われているような事が他の国でもされている事は確認できました、しかし、いくつかの国では「食事」というキーワードがでてきたのです。それは宗教にとは関係なく、環境のために「ベジタリアン」や「ビーガン」として生きている人がいるという事です。イギリスでも、環境のために菜食主義者になる人が増えてきているそうです。身近である学校の中でも環境の為にビーガンになる事を推進するポスターが張られていました。また、スーパーに行った際にフードバンクと言って、食べ物が入らない人の為に食べ物を寄付するためのボックスが設置されていました。食に困っている人を救えるだけ



だけでなく、前述した写真の中にあるポスターの通り、一つの食事を作る為に多くのエネルギーが消費され、地球温暖化に直結していることから環境保護にもつながります。日本は食料



廃棄率が高い国の一つであるため、こういった事を積極的に取り入れるべきであると思います（フードバンク自体は日本に存在していますが、多くのスーパーにこのような物が設置されていない等、まだまだ普及していない印象があります）。日本から外に出ることによって、環境問題の再認識やそれにたいする各国の取り組みを新しく学ぶことができました。